

◆宣教司牧活動の現況

今年度の京都北部ブロックにおける宣教司牧活動とその状況について

昨年との比較ではさほど大きな変化はなかった。勿論、コロナ禍の時よりは制限なしに祭儀及び教会活動に変化はあった。例えば、ミサ聖祭では、特に主日ミサで歌ミサが侵透しています。参加する信徒も若干増えたように思います。ただ信徒の高齢化は進んでおり、帰天される方が多くなった。また教会役員に変わりがなく、その常態化はやむを得ない状況にあります。同じ人が繰り返して役を担うことは、今年もおそらく来年以降も変わらないでしょう。また各地区での信徒の状況も似ており30代から40代の若い信徒は依然、教会から離れたままです。このような現状から脱却するために教会行事やイベント等に勧誘し声かけなどするが、それでもなかなか教会に足を向けるには至っていないのが現状です。

◆教育部会の活動

丹後教会の教育部では今年度から子どもたちを集めることに成功しています。ひとつは教会学校の開催です。今年、5月18日を皮切りに月一回のペースで始めることができました。デイ・キャンプも昨年に引き続き開催(10月26日)し、大宮礼拝堂での「教会ピアノ」も開催できました。これは地域の方々にも情報発信して大宮教会ホールに来てもらい、音楽を通じて集まるものです。ここに教会があることを知ってもらう、そうした目的で始めました。今年も一回目が5月26日、二回目が11月17日に開催されました。この活動は教会の外に向けた宣教活動として大いに評価されるでしょう。

◆国際協力活動

今年、どの地区でも委員会は開かれませんでした。フィリピーナ信徒と協力し共に集まり話し合っ、英語ミサを始めることでした。特に西舞鶴教会での毎月の第二主日、午後2時から英語ミサを始めました。最初は20人以上のフィリピーナたちが集まりました。この英語ミサは5月から始まり今ではすっかり定着しました。ミサ後は、お茶会やフィリピン料理を囲んで楽しい集いになっています。今後は、日本人信徒との交流も深めたいところです。こうしたミサと集いの輪を宮津教会でも広めようと英語ミサの再開を企画しましたが成功しませんでした。現在もなお教会に来られない多くのフィリピーナたちがいます。彼女らと連絡を取り合いながら、共同体作りを進める企画は今後も重要な検討課題です。なお教会行事のお知らせやミサ時間を共有するポスター等の情報発信ができました。教会の集いや日本語ミサへの参加を促していきたい。

◆典礼部会の活動

典礼部では昨年の合同腹部ブロック典礼研修会以降、新典礼によるミサ曲の練習を積み重ねた結果、歌ミサがほぼ各教会や聖堂、礼拝堂にて行えるようになりました。こうした典礼の具体的な実践により、今ではどの小教区でも違和感なくミサ聖祭においてミサ曲等歌えています。今後は侍者や朗読奉仕にも力を注ぎたい。

また、宮津聖堂は今年1月19日付けで国の重要文化財に指定されました。このことを受け、5月6日の献堂記念日に記念のミサを大塚司教様司式にて開催されました。これはブロック全体の祝いとなり、これ以降、今日まで多くの観光客の訪問があります。これらの訪問者への対応が今後、大きな課題となるでしょう。

◆福音化活動について

福音宣教部主催の聖書講座が定着しています。月一回、月末最後の土曜日午後一時から行われている宮津ルーブ館での「聖書を学ぶ会」。また西舞鶴教会で行われている隔週金曜日の午前10時リゴリアンホールでの

「聖書講話」。これらが定着している。こうした聖書の学びから求道者の人数にも影響を与えていて、今では3人の求道者が月の第2、4火曜日午後二時からの宮津司祭会での受講に来られています。聖書を学ぶことでイエスをより身近に感じ、信仰の道に入ることがあれば、それは福音の実りであり宣教の恵みとなります。そのため、これからも信徒の協力は大きい期待されます。その他、毎週水曜日、宮津ルラブ館で<聖母への祈りの会>が行われ、福知山教会では<聖書を読む会>が毎週火曜日、ミサ後に行われています。

◆その他

京都北部全体の宣教司牧活動の拠点として司祭が常駐するレデンプトル会舞鶴修道院は、今後もその建物を活用しての信徒養成の拠点とします。今年も既に三回(2月、7月、10月)、信徒向けの研修会が開催されました。テーマを「シノドスの教会となるために」として信徒養成研修が行われました。

その他、メディア宣教も広がっています。昨年、西舞鶴教会のHPが立ち上がり、宮津聖堂にもHPを立ち上げました。さらに福知山HPも整備されました。このように西舞鶴のリゴリアンホール、宮津のルラブ館、そして福知山のマリア館は、まさに北部ブロックの宣教司牧の活動拠点です。これらを更に有効利用することで、今後の教会活性化に貢献することは必定です。

因みに、リゴリアンホールでは貸館して一般にも利用してもらいたいと考えています。昨年、そこで音楽会が開催され、今年は聖堂で11月末日に計画しています。またルラブ館では、聖堂の重要文化財指定を機に、情報発信基地としてHPを新たに立ち上げ、ポストカードやパンフレットを新しく作成、配布、販売しています。パンフは近隣の<道の駅>にも配布しました。今後、天主堂は文化庁による耐震診断とその補強による整備、修復が始まります。そうした中、案内受付の事務所の設置と整備及び受付案内係の人員配置は、来年以降の大きな課題です。また来年は聖年という事で、宮津と福知山の両教会は巡礼教会として指定されています。そこで、宮津教会では主日ミサを月二回とし、第2と第4の土日、司祭も常駐します。また信徒による受付案内体制をさらに拡充する準備を押し進めています。

以上 司祭団からの報告

<西舞鶴教会の報告> -2024年度・カトリック西舞鶴小教区の目標の振り返り-

<報告者> 信徒評議員代表 遊里道真吾

◆『活動できる信徒の養成、掘り起し』

現実的に日本人で若い世代の信徒が、日曜日、教会に来ているのを見ることは、ほとんど無い(※但し帰省などで単発的にミサに来ることは有る)。そんな中でも、5月より毎月第2日曜日、午後2時より英語ミサが再開された。アントニオ神父が中心となり、フィリピン人コミュニティが主体となって行われている。彼らはお客さんではなく、自分達の教会として関わっている。11月で7回目となり、ミサに与るのは10から20名ほど集まっていて、ほぼ定着しつつある。侍者担当の岩永氏が彼らと関わり、交流を図っている。今後は、時間もかかるだろうが、祝日等を機会に、日本人コミュニティとの接点を探ることで、一つの共同体となって活発になり、よい方向に向かえばよいのではないかと思う。

◆『協働的シノドスの理解と反映』

教会のH.P.が出来、一年余りがたつ。地域社会に向けての教会からの発信として、何らかの役割を果たしていると思われる。今後、もっと認知されるようPRが必要かとも思う。それ以外の所でも、少しずつではあるが、外に向こっているとはしている。丹後教会や福知山教会のように、活発には動けてはいないが、今後は、アイデアをもって何か実行する人材とエネルギーが必要になるだろう。今の所、現状の問題を処理するのにとどまっている。それでも、11月30日に行われる教会コンサートは、1つの外への働きかけになるかもしれない。来年に向けての参考になるだろう。

◆2020年から2023年のおよそ3年間、西舞鶴小教区では、コロナ禍の中、信徒同士のコミュニケーションがかなり希薄になった。この現実を取り戻すべく、教会はいつもどんなときも信徒の拠り所であり続けるために互いに言葉をかけあい、かつ耳を傾け、喜びを分かち合うことができるよう心掛けました。

◆北部ブロックにおいて掲げられた6つの計画の中から、特に②⑥を中心に取り組んできました。その②は「活動できる信徒の養成、掘り起こし」です。また⑥は「協同的シノドスの理解と反映」についてです。以下の通りです。

◇2022年11月から新典礼文に合わせ新式次第リーフレットを作成、再編集したことにより、2024年に入って以降、聖歌や祈りも声を合わせて歌えるようになり、コロナ禍に中断していた奉納行列の再開などミサにおいて共に祈る一体感が増しています。また、外国人信徒や、旅の途中で西舞鶴教会に立ち寄る信徒や観光客等に声をかけるなど、積極的なコミュニケーションにより教会への招きも少しずつですが、進められるようになってきました。

◇北部ブロックは3名の司祭で巡回されるため、ここ数年の聖週間典礼では東舞鶴・西舞鶴教会においては、隔日で礼拝が行われ、高齢信者にとっては聖週間典礼にすべて参加するのは難しい現状があります。

◇毎年、東西舞鶴教会では信徒との日程調整とスケジュール案内が必要で様々な課題もありました。でも、今は頭島神父の計らいによりレデンプトル会本部から別の神父に来ていただき、復活主日まで西舞鶴教会でミサに参列できるようになった。また、普段、足の遠のいている若者への呼びかけなども、信徒の一体感のもとで復活の主日を祝うことができたことは大きな喜びとなりました。

◇少子高齢化とコロナ禍の中にあって、急速に衰退した共同体は、今少しずつ共に歩む共同体へと姿を取り戻しつつあります。それぞれ部会の単独活動は積極的とは言えませんが、小教区が抱える様々な課題の解決に取り組んでいます。

<東舞鶴教会報告>

◆国際交流としてミサの中での朗読や奉納行列で、外国籍に方々も、日本人と共に、当番制で入ってもらっている。

9/29のミサ後には茶話会を開催し、外国の人にも参加をよびかけコミュニケーションをとるきっかけとなった。

◆教育活動としては6/30に、子どもの育成を目的に「かみさまといっしょ！」をテーマに、幼児を中心にして、子供たちを集め、神さまに触れる機会と保護者同士のつながりを強めることができた。教会にもっと気軽に来られるような環境づくりが必要とのことから企画されました。参加者は4家族とその子どもたち6人、そして保護者が5人でした。

◆Wi-Fi環境が整備され主にFacebookを利用して、カトリック東舞鶴教会の様子をアップしている。これからの課題としては、教会の外に向けた具体的な活動にある。

<福知山教会からの報告>

福知山にはフィリピン共同体、ベトナム共同体があって、彼らと共に<国際ミサ>を、月の第一日曜日の主日ミサにて行っている。歌、朗読、奉納などの奉仕で、外国籍の兄弟姉妹と共に協力しながらミサが執り行われている。その他、英語ミサやベトナム語ミサが、それぞれの国の神父様の司式によって行われている。毎月一回午後二時からのミサでは日本人も参加して行われている。短期目標として、病気の人、体の不自由な人などを司祭とともに訪問している。その他、墓地での追悼の祈り、復活祭の行事やクリスマス等の飾りつけ等ではベトナム人、フィリピン人たちの協力があります。

また、福知山には「聖家族便り」という機関紙があります。年二回の発行ですが、今年一度だけでした。発行部数も少なく、今後はHPとの関係でよりよい広報へとつなげたい。また教会では聖堂を利用しての演奏会を開催してきた。今年一回のみであった。「黄色いリボン」運動を進めているが参加者が今一つである。目的を周知し継続していきたい。HPを新しく立ち上げているが、新規の司祭のページなどアップしていきたい。

2024年 カトリック丹後教会の主な動き

多くの人が集う教会になるように

- ① 宮津天主堂の重文指定を広く知らせ訪問者を増やす取り組みについて
HPの新開設・TVや新聞・雑誌での紹介・パンフレットや絵葉書の作成・見学者対応。
- ② 教育部の活動の活発化。フィリピン出身者の家族のサポートを含め、国際協力委員会と協同して活動を進めた。毎月の教会学校で<カレーを食べる会><デイ・キャンプ>、そして待降節での工作教室を実施した。チラシを作って配布、更にSNSも利用し広く呼びかけた。
- ③ 信者以外の人にも教会を訪れてもらう取り組み（教会びあの）
- ④ 福音宣教委員会活動（黙想会・研修会・おむすびを学ぶ会など）
- ⑤ 教会行事や近況・ミサなど毎月の予定をfacebookで発信（友達数約480）
- ⑥ 大宮・峰山の聖堂の検討委員会（福祉施設として活用の方向）
- ⑦ 高齢者のためのマイクロバスの運行を再開（宮津⇄加悦・宮津⇄網野）10～15人が利用

主な取り組み

- 1月・宮津洗者聖ヨハネ天主堂の重文指定決定
・小教区評議会総会（加悦教会堂）約50人の出席
- 3月・四旬節の黙想会（4つの聖堂で実施）善きサマリア人の例えをグループで分かち合いをして深めた
・復活徹夜祭ミサ（加悦教会堂）約70人、復活祭ミサ（宮津教会堂）約100人
- 5月・宮津洗者聖ヨハネ天主堂の重要文化財指定記念ミサ 約100人参加
これに併せてパンフレット・絵葉書の作成・ホームページの開設 月水金の午後 聖堂の見学対応
・第4回 教会びあの（大宮礼拝堂）約90人参加 半数以上が未信者
本・CDの譲渡会も実施し、寄付金を能登半島地震支援に
・教会学校「あつまれひだまり広場」の実施 以後毎月1回実施（岩滝・網野で）
教会に集まることが楽しみになる会にしようとして内容を検討。
- 7月・網野教会堂の信徒会館、宿泊受け入れ（2グループが利用）
- 8月・「カレーを食べる会」（サマーキャンプ同窓会）20～30代の人を教会に誘う取り組み。
（子どもを含め30人の申し込み）和やかな雰囲気 [全体で約50人の参加]
- 9月・ブロック合同堅信式（加悦教会堂）4人が受堅 丹後からは1人
- 10月・デイ・キャンプ（教育部）網野教会堂でミサをしてから、海岸へ遠足
子ども6人 大人24人が参加
- 11月・第5回 教会びあの（大宮礼拝堂）約90人参加
・おむすびを学ぶ会（福音宣教委員会）参加者35人（未信者多数）「佐藤初女さんに学ぶ取り組み
ビデオ視聴・実習・講話など

当面の課題と対応

- ・聖年の巡礼教会指定された宮津教会堂の訪問者対・応宮津でのミサを月1回から、2回に増やすボランティアを募集し月水金の他に土日も聖堂を開けることが出来るようにする。（人数の確保が課題）
- ・宮津教会内のWi-Fi環境の整備と防犯カメラの設置
- ・多くの人が教会を訪れるよう、今年の活動をベースに継続していく
- ・ホームページやSNSを活用し、ミサや行事などの情報の発信をして教会のことを知ってもらう

以上

2024年 洛北ブロック報告

<2024年ブロック短期計画>

- ①各々が生活の場でキリストを体験し、キリストと出会うことを意識化し、味わい、深めていくことができるように、教会共同体におけるあらゆる企画をキリストの体験へと方向付けます。
- ②キリストを体験することで、各々が自己中心的な信仰観や無関心、囚われから解放され、お互いがお互いを大切にできる教会共同体作りを目指します。特に大きな教会では、小グループ作りを推奨しお互いの生活がみえる家族、仲間づくりを模索します。
- ③小教区の枠組みを超えて、オンラインなども活用した参加可能な黙想会、信仰入門講座、キリスト教講座、勉強会、典礼研修会、分かち合いなどを目指します。
- ④ブロックで協力して小学生、中高生、青年、すべての世代の信仰教育に取り組みます。また西陣教会内の望洋庵と連携していきます。
- ⑤地域社会や地域の諸団体との連帯を模索します。

① について

複数の小教区で、司祭の説教を改めて読みたいという希望があり、実施している。

② について

・地区集会で意見集約を行っている(衣笠)。また部会が意見集約の場になっている小教区もある(高野)。 信徒数が少ない小教区は通常の茶話会、敬老の集いなどの集まりを充実させている (西陣・小山)

③ について

西陣教会でのキリスト教講座は小教区を越えて希望者は受講できるし、そうしている(ブロック)。

④ について

9月に中学生までの子供たちの交流会を実施。来年も計画している。来年は堅信の準備講座をブロック合同で計画(ブロック)。

⑤ について

・11月にバザー実施、多くの団体(宇津・山国教会、小山教会ファチマの会、望洋庵、夜回りの会、地域の社会福祉法人)が参加した(衣笠)。小教区周辺の葵学区社会福祉協議会主催のふれあい祭りを開催した。英会話クラスでは信徒以外の参加者もあり、仲良くやっている(高野)。望洋庵と連携し、青年や留学生との交流がある(西陣)。

2 評価

短期計画については、全ての小教区が心掛け、取り組んだものと理解している。

教会内で小さなグループを中心とした活動が、司祭主導ではなく信徒の主體的活動に広がっていることが特徴だろう。

2024年度洛東ブロック宣教司牧計画 振り返り

10月26日洛東ブロック会議での振り返り

長期計画Ⅰ ブロック全体に開かれた分かち合いの場を設け、小教区間のつながりを深めてゆく。	
振り返り	年間計画1-1 中高生・青年の集いを行う。
	6月23日(日)ブロック合同教育部主催「中高生&青年の集い」開催 a河原町教会カトリック会館見学 b河原町教会周辺の史跡(記念碑)を巡り、福音を分かち合って交流を深める
長期計画Ⅱ 各小教区固有の学び、祈り、活動(地域との交わり、国際協力など)、交流行事をブロック共同体の福音宣教活動として共有する。	
振り返り	年間計画2-1 各小教区で四旬節黙想会を計画し、ブロック内に知らせる。
	桃山:2月25日(日) ナン神父 伏見:2月18日(日) ナン神父 山科:2月25日(日) 原田神父 河原町:3月10日 米田神父
振り返り	年間計画2-2 「病者の日」(ミサ)を行う。
	桃山:2月4日 伏見・山科・河原町:2月11日 共同祈願を各教会が作成し、担当教会で集約
振り返り	年間計画2-3 国際交流を促進する。
	桃山:「折り紙の集い」実施中 伏見:ベトナム語のミサ(月3回)。ベトナムの人たちと共に捧げるミサ。 ベトナム語の結婚講座 山科:比叡山宗教サミットへ毎年参加 河原町:第2・4日曜日に英語ミサ 日本語のミサにも外国人旅行者の参加が多い。外国人の巡礼団も訪れている。
長期計画Ⅲ ブロック内小教区の多様性を活かしながら、福音宣教の可能性を模索する。	
振り返り	年間計画3-1 平和旬間行事を行う。
	桃山:生きたロザリオ、祈りのポストイットとガザ地区への募金。 山科:平和旬間に、「平和について考える」「平和を祈る」の活動を行う。 比叡山宗教サミット参加、平和一斉祈願ミサを行う。 河原町:正平協の「国際写真展」を手伝う。
振り返り	年間計画3-2 「防災の日」を設ける。
	桃山:地震発生を想定して避難訓練と分かち合いを実施。 伏見:避難訓練・消火器の設置場所の説明を行う。 山科:聖堂内に救急セットと緊急避難セットを設置。
振り返り	年間計画3-2 「エコロジー」の取り組みを行う。
	伏見:ミサの際のゴミ回収に新聞紙使用、珈琲用の砂糖・ミルクは小分けしたものを使用しない。
総評	
北白川教会が洛東ブロックに編入されました。また、2024年度よりブロック会議の開催を年3回としました。コロナ後各小教区の自発的な福音宣教活動も復活してきており、2025年度も分かち合いながら進めてまいります。	

2024 年度 京丹ブロック共同宣教司牧 短期計画の振り返り (2024.11.21)

・長期計画：「地域に対して開かれた福音宣教する教会協働体となっていきましょう。」

・短期計画

「あらゆるものはつながっている」という視点で「ともに歩む(シノドス)教会」の具体化を進めます。

(1) 小教区の枠を超えて、子供及び青少年の育成とすべての世代の信仰教育に取り組みます。

- ◎ミサ後の福音の分かちあいを催している。
- ◎ブロック教育部の活動で合宿などの中高生会を実施。
- ◎一場神父の「みことばの祭儀」が youtube で発信が継続している。
- ◎ホルへ神父による侍者教育を各教会で開催した。

(2) 小教区の枠を超えて、すべての信徒が教会共同体を「自分たちの家」のように感じ、

誰もがつながっていることを忘れず行動します。

- ◎コロナで中止していたクリスマス会・敬老会などを再開してきた。
- ◎教会へ来ることが出来ない信者の自宅訪問を行っている。
- ◎ミサ後も教会に残り、茶話会や分かち合い、様々な活動が再開した。

(3) 小教区の枠を超えて、信徒それぞれの生活の場でのキリストとのつながりを信徒間、社会で共有します。

- ◎京丹ブロックHPでブロック行事やミサ予定の共有が継続。
- ◎インターネットや、教会掲示板、広報誌で各教会でミサ時間などを広報。
- ◎クリスマスコンサート等を開催し、地域・近隣の方との交流を行っている。
- ◎教会を地域の活動に開放している。

(4) コロナ禍での学びを活かし心を新たにして教会活動を進めて行きます。

- ◎ブロック合同ミサを再開し、ミサ後に分かちあいや茶話会を再開できた。
- ◎教会内の会議は対面となったが、LINE やメールによる情報共有は進んだ。

山城ブロック宣教司牧 短期計画の振り返り

1) ブロック国際協力部の更なる充実・発展を目指す

宇治教会で毎月第一日曜の午後 14 時より国際ミサを続けており、ミサ後の茶話会も開かれるようになったが、多くの信徒が与る 9 時のミサと時間が開いており、普段はなかなか国際交流が出来ていない。11 月 3 日宇治教会でバザー開催の機会には、久しぶりに国際交流ができた。

2) 青少年の育成への支援をします。

7 月 15 日田辺教会にて山城ブロック教会学校の集いを開催・子供 18 名、大人 17 名でステンドグラス作りを行い、大人や中高生も参加して大いに楽しむことができた。今後も年 1~2 回教会学校の集い大人も参加できる形で開催することを検討する。また、田辺教会から 2 名の中学生が参加した広島巡礼を補助した。

3) 高齢化に対する取組を充実させる

各教会の状況に合わせて対応することができた。聖堂に入るまでに手すりをつけている・寒さ対策としてクッションを購入し椅子に設置（青谷教会）。庭木や教会外回りの木々など、信徒では難しい清掃はシルバー人材センターに依頼（八幡教会・田辺教会）など。

4) 各教会広報とブロック広報について

復活祭と降誕祭の時期に合わせて、ブロック広報誌を発行し、各教会に配布してブロック各共同体の様子を共有できた。

<滋賀ブロック>からのご報告

6教会=大津教会・草津教会・彦根教会・長浜教会・安曇川教会・唐崎教会

《ブロック内に向けて》

2024年ブロック企画として5つの取組みを行いました。

- (1) 安土セナリヨ記念ミサ
- (2) 平和旬間の取組み
 - ①被爆体験者の講演と記念コンサート（6/22：草津）
 - ②平和旬間祈念ミサ（ブロック共通共同祈願）
 - ③『平和メッセージ』ボードの作成し全教会分を展示 【画像有り】
- (3) 教会学校サマーキャンプ
 - 4教会（草津・大津・安曇川・唐崎）合同開催
 - 長浜教会・彦根教会は単独開催
- (4) 合同堅信式（9/8：草津）
- (5) 『第35回 びわこウォーカーソン』（11/23：大津）

【課題】

- ・ブロックが全県エリア（琵琶湖も有）で、高齢化もあり参加に負担が出始めてきた。
- ・外国人コミュニティーの方との交流は進んではいるが、合同開催の難しさもある。
- ・更にコロナ禍を経て、ブロック内6教会の規模また各教会の状況もあり人的選出の難しさがある。

《ブロック外に向けて》

- (1) 依頼のあった災害募金他にも、各小教区で工夫しての取組み。
釜ヶ崎ふるさとの家、希望の家、エンブリオ基金、古切手収集 etc
- (2) 小教区施設を教会以外の団体にも開放した。
- (3) 信者でない方のおられる家で聖書分ち合いやロザリオの祈りを行う。
- (4) 障害者・高齢施設での信徒有志によるミニ音楽会を複数回行う。
- (5) 教会に初めて来られる方には、漏れなく積極的に対応した。

以 上



2024年度奈良ブロックの宣教司牧計画

振り返り資料

2024年11月30日

短期目標について：

- 1) 奈良県青少年の集いについて、本年は6月及び10月に西大和カトリックセンターで実施した。
- 2) 共同宣教司牧の信仰講座について、ブロック全体としての講座はなかったが、一部小教区内で実施した。
- 3) 多国籍の共同体との交流について、主に国際協力委員会を中心にラテングループやヴェトナムグループの方々とコミュニティを図った。
- 4) 高山右近の取次について、小教区においてミサの中で祈りを実施した。
- 5) 高齢化の進む現状に照らし、小教区の地区編成の見直しや、教会に来られない方への情報提供の見直しを行った。

2024年三重北部ブロック宣教司牧実施計画書

2024年12月1日

教区優先課題	京都教区は、21世紀を迎え、次の5つを宣教の優先課題として取り組みます。 1. 共同宣教司牧を推進して、果敢に福音宣教する教会共同体になって行きます。 2. 滞日外国人の人々と連帯し、多国籍の教会共同体を作ります。 3. 青少年の育成に力を入れます。 4. 信徒の生涯育成と、信徒の奉仕職を充実させていきます。 5. 「社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連携し、社会の正義と平和の問題に取り組みます。		
長期計画 2018年～	①司祭誕生を目指し、小・中学生への信仰教育を充実する。 ②教会活動、青年部活動の活性化、中・高校生の教会活動への参加の強化策を策定。 ・教会活動に参加する人数を増やし、信徒全員が「一人一役」として係れる共同体作り。 ・多文化、国際協力、社会活動に貢献する。 ・青年部活動の発展。		
	短期計画(ブロック)	担当	実施状況
長期計画 ①	短期計画①侍者研修会 侍者研修会に向けて、司牧者チームで動作について確認する。	司牧者チーム 教育部	・各小教区で、司牧者、教育部、典礼部が動作などを教育、再確認をしている。 ・侍者数は確実に増加している。(桑名)
	短期計画②サマーキャンプ 7月28日(日)、29日(月)に実施する。 (四日市少年自然の家)	北部ブロック 教師会	・北部ブロックの教育部会が担当、実施。実り多いキャンプとなった。参加者は、子供27名神父様4名、シスター1名、ボランティア18名
	短期計画③三重北部合同堅信式 11月10日(四日市教会):企画を行い、未受堅者に堅信を受けるよう呼びかけ、準備の勉強を実施する。	北部ブロック 司牧者チーム 各教育部	・11月10日四日市教会で、司教様をお迎えし、合計46名が堅信の秘跡に与れた。 ・準備の勉強は、各小教区で神父様により行われた。
	短期計画④子供のミサ、行事参加の促進 子供に教会に興味を持ってもらい、ミサ・行事に参加しやすい環境作りの企画、実施。	司牧者、役員 教育部 典礼部	・日曜学校を月1度実施(桑名) ・チャリティバザーで、ゲームコーナーを設け多くの子供たちが参加した。(四日市、桑名) ・子供たちによるミサ・レクレーション(鈴鹿)
長期計画 ②	短期計画⑤ブロック交流会 青年、外国人、日本人信徒の活動できる機会を増やせるように準備する	四日市	・10月14日(月)ブロック交流行事として、大阪玉造教会への巡礼バスツアーを実施。 当日は、酒井補佐司教様の訓話、ミサに与った ・参加者は、合計71名(約半数は外国人の方)
	短期計画⑥勉強会 各教会で実施している聖書等の勉強会をお互いに知らせあい、勉強会に参加できる機会を増やす。	役員 司牧者チーム	・各小教区で、聖書勉強会・分かち合い、カトリックの教えなど実施中。 ・ブロック会議で、情報を共有して誰でも参加できる体制としている。
	短期計画⑦黙想会 各教会で実施する黙想会を、お互いに知らせあい参加できる機会を増やす。	役員 司牧者チーム	・ブロック会議で、各小教区に黙想会の予定を連絡し、参加を促している。

三重南部ブロック宣教司牧短期計画の評価と現状報告

1 国際ファミリーデーの後援

上野教会国際ファミリーフェスタ（6/30）に南部ブロック各教会から各コミュニティを含めて参加。国際交流のモデルとして今後の各教会行事の参考となった。

シノダリティを考えるとときに日本人信者は外国人のために何かできないかを切り口として取り組み始めたが、現状は外国人コミュニティの協力がなければ教会自体が成り立たなくなっている。維持費などの経済的なことも含めて議論をする必要がある。

2 教会学校行事

(1) 中高生黙想会（参加者減少に伴い2025年度は中止）

(2) 侍者会研修（教区、ブロック）教会学校担当者研修会（教区 11/30）実施

(3) 7/27 教会学校担当者黙想会実施（於 唐崎祈りの家）

(4) サマーキャンプ（7/13～7/14）スタッフ含めて69名の参加

(5)

3 シノダリティの理解を深めるための分かち合い

シノダス的教会の創生 具体的な取り組みまで迄は至らなかった。

今後も外国人コミュニティを含めて各信者シノダリティを意識・共有することを確認した。

4 カトリック平和旬間行事の実施

津教会では珍道世直氏による津の大空襲の実体験の講演と空襲直後の津の町の惨状を写真展示。久居教会では世界平和のために各国語でロザリオの祈り実施。各教会単位で平和のための行事が実施された。

5 南部ブロック合同堅信式 5/19 上野・名張教会 11/17 久居教会

6 世界祈祷日（3/1 於 日本基督教団）への参加 津地区プロテスタント教会などと交流（津教会、久居教会）

伊賀地区合同祈禱会参加 国際ファミリーフェスタで地域と連携